

拝啓、先日はお忙しい中お電話を頂き誠にありがとうございます。
お電話での先生のお声を拝聴する限りでは、大変お疲れの様子
で、毎日夜遅くまで分刻みで応診に回わられているのではないかと
ご推察いたします。どうか呉々もお身体を大切になさって下さい。
さて、母ご特養に入所してから今日へ してちようど一ヶ月になり
ました。実家から車で五分から十分で行き来できる距離は本当に
ありがたいことですが、私にとって今では近くて遠い施設になってしま
いました。と言いますのも、母とは今日迄まだ一度も面会出来ていま
せん。施設側の説明では、息子さんと会うことで興奮して「帰宅願望」
「被害妄想」等精神的ストレスが増幅され、新しい環境に馴染めなく
なるので、いい意味で本人が諦めがついて穏やかになるまで待つと下さい
と言われました。ですので毎週末母の身の回りの物と茶菓子（フニ
ット十五金員の十個分）を持参して、その際に職員から母の様子をうか
ぶだけでいいと思います。

に施設の相談員から連絡があり、母が で

病院へ運ばれたので、これから施設に来て頂けませんかと言われ、私はその日の予定を変更して施設へ行きました。母は既に病院から戻り、そこでようやく母に会うことが出来ました。しかし、その母は変わり果て、顔がむくんで、前の倍近くになり、オムツにもなっています。

母は私の顔を見て、「どこの子？どこの子？」と訊いたので、私は動転しそりば思いを抑え、母の手を握り肩をさすりながら母の耳元で、「お母さんの子だよ。」と言うと、母は「会いたかったよ」と答えた。

母は遠端、今度は「胸が苦しい」と私に訴えました。相談員の話では、サリウム・レーンオンが七十%台でかなり低く、昨日から食欲もないので、点滴をしてみました。今は九十%台に回復したとのことでした。私はすぐ自覚はあった。在宅酸素吸入器を持参し、その後は母が少し落ち着いたので、うきうき、残念ながらこの日、母が興奮するといけないというところで、五分程で帰ってきました。

私は、帰りの車の中で、ハンドルを握りながら溢れる涙を抑える事が出来ませんでした。

お願ひ申上げます。

敬具